

第 44 回全日本杖道大会に関するレポート

10月8日の第44回全日本杖道大会にて、私は初めて杖道の試合を見ることが出来た。前期の講義も履修していた私は、中村先生が師匠を講義に招いてくださり、初めて杖道の形というのを見たが、本物の試合を観るのは初めてだった。

試合で観る杖道は本気の真剣勝負で、会場には緊張感があった。最初は剣道と似ていて、同じようなスポーツだろうと思っていたが、戦う枠は剣道よりも小さく、剣道は竹刀を振り下ろし、杖道は突いているように、剣道と杖道の違いがハッキリと見えた。「剣」と「杖」、似ているようで全対となる存在なのだと気づかされた。杖では人を切ることは出来ない。しかし制圧することが出来る。またその試合での選手の杖使いに、観客の私まで圧倒された。

杖道は突くだけでなく、引く。これは私自身が体験して思ったことでもある。剣道の竹刀とは違い、一本の杖を使うので、どちら側も先端になりうるのだ。引いて突く、あるいは振る。「自由」であり比較的「効率的」な戦法だと今回の試合を観ていて思った。戦法というよりかは演武かもしれない。確かに選手達は戦っていたが、それは演武が大前提にあるもののように思えた。

実際試合を観に行き知ったのだが、基本試合は二組で紅白に別れ決められた手順の形を披露し、審判の評価で勝敗が決まる。私は偶然先生の試合を観ることができた。遠目からで分かり難かったが、最後は先生の演武に旗が上がった。その時、初めて杖道の勝敗のつき方を間近で知った。



